



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマタネ

コード番号 9305 URL <https://www.yamatane.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河原田 岩夫

問合せ先責任者(役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 菅原 卓喜

(TEL) 03-3820-1111

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	66,018	9.8	4,956	76.7	4,739	64.0	3,601	59.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 3,966百万円(△14.1%) 2025年3月期第3四半期 4,620百万円(△14.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	166.03	—

(注) 当社は2025年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
2026年3月期第3四半期	百万円		百万円		%		円 銭	
2025年3月期	172,116		58,888		34.2		2,763.91	

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 58,888百万円 2025年3月期 58,384百万円

(注) 当社は2025年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	40.00	—	65.00	105.00
2026年3月期(予想)	—	35.00	—	40.00	75.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2025年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2025年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。2026年3月期及び2026年3月期(予想)については、当該株式分割後の数値を記載しております。なお、株式分割を考慮しない場合の2026年3月期(予想)の年間配当金は、150.00円となります。

3. 配当予想につきましては、2026年1月23日に公表しました「2026年3月期配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2025年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。これに伴い、2026年3月期の連結業績予想における、1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。  
なお、株式分割前基準での1株当たり当期純利益は、452.03円となります。

## ※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規4社（社名） 株式会社ヤマタネドキュメントマネジメント、株式会社キヨクトウ、  
株式会社農産ベストパートナー、株式会社しん力

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、（添付資料）8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記  
事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	22,688,362株	2025年3月期	22,688,362株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	1,382,113株	2025年3月期	554,184株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	21,691,592株	2025年3月期 3Q	20,428,264株

(注) 当社は2025年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無

監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9
(収益認識関係) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループの当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で個人消費および設備投資に持ち直しの動きが見られ、景気は緩やかに回復して推移いたしました。しかしながら、米国の通商政策による影響が一部で見られるなど企業収益には改善の足踏みが見られ、海外景気の下振れリスクや物価上昇の継続等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そのような状況下で当社グループの経営成績は、物流カンパニーでは、一部荷主の失注の影響がありましたが海外引越の取扱いが前期を上回って推移したことに加えて、2025年7月に連結子会社となった株式会社ヤマタネドキュメントマネジメント（以下「ヤマタネドキュメントマネジメント」と言う。）及び株式会社キヨクトウ（以下「キヨクトウ」と言う。）が業績に寄与し、食品カンパニーでは、コメ卸売販売業においてコメ不足の影響で販売単価が大きく上昇したことに加えて、2025年8月に連結子会社となった株式会社農産ベストパートナー（以下「農産ベストパートナー」と言う。）及び株式会社しん力（以下「しん力」と言う。）が業績に寄与したことにより、売上高は660億18百万円（前年同期比9.8%増）となりました。営業利益は、物流カンパニーにおいて、海外引越が好調だったことに加えて、倉庫事業において外注コストと人件費増の価格転嫁が進んだこと及び2024年に計上した本牧埠頭新倉庫の不動産取得税がなくなったこと、また食品カンパニーでは、コメ卸売販売業で安定供給を図りながら適宜適切に価格転嫁を進めたこと等により49億56百万円（同76.7%増）となりました。経常利益は受取配当金が増加した一方で、シンジケートローン手数料を計上したこと及び支払利息が増加したこと等により47億39百万円（同64.0%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、減損損失の計上や法人税等の計上増額はあったものの、投資有価証券売却益の計上に加え、2025年2月に連結子会社であった山種不動産株式会社を吸収合併したことにより非支配株主に帰属する四半期純利益がなくなったことから36億1百万円（同59.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 〈物流カンパニー〉

物流カンパニーでは、国際業務において、海外引越を中心として取扱件数は前年同期を上回り、国内業務において、2025年7月に連結子会社化したヤマタネドキュメントマネジメント及びキヨクトウが業績に寄与した一方で、倉庫事業で一部荷主の失注がありました。この結果、売上高は187億54百万円（前年同期比0.9%減）となりました。営業利益は、庸車費用等の外注コストや人件費増の価格転嫁が進んだことに加えて、取扱量に応じてリソースを適切に配分したこと、2024年6月に竣工した本牧埠頭新倉庫の不動産取得税の計上がなくなったこと等により、15億29百万円（同17.5%増）となりました。

#### 〈食品カンパニー〉

食品カンパニーでは、当社のコメ卸売販売業において、原料調達が計画を下回り販売数量は42千玄米トン（前年同期比23.5%減）となりましたが、需給の逼迫に伴い販売単価が上昇したことに加え、備蓄米の精米作業を受託したこと、2025年8月に連結子会社化した農産ベストパートナー及びしん力が寄与したことから、売上高は274億97百万円（同25.1%増）となりました。また、加工食品卸売業の株式会社ショクカイ（以下「ショクカイ」と言う。）において、産業給食事業向け及びデリカ事業向けの販売が堅調に推移し、売上高は150億27百万円（同3.5%増）となりました。この結果、カンパニー全体の売上高は425億25百万円（同16.5%増）となりました。営業利益はコメ卸売販売業において、需給が逼迫する中で顧客への安定供給を図るとともに、適宜適切に価格転嫁を進めたこと、備蓄米の精米作業を受託したことによる生産効率の向上等により、30億12百万円（同263.0%増）となり、ショクカイでは業績が概ね計画通りに推移したことにより、7億32百万円（同4.9%増）となりました。この結果、カンパニー全体の営業利益は、37億44百万円（同145.1%増）となりました。

#### 〈情報カンパニー〉

情報カンパニーでは、大口開発案件が減少した一方で、運用支援業務の拡大や地方拠点進出があったこと等により売上高は12億72百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は52百万円（同4.1%増）となりました。

#### 〈不動産カンパニー〉

不動産カンパニーでは、所有物件が高稼働率を維持する中、前期に取得した賃貸物件が寄与し、売上高は34億66百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は15億29百万円（同2.9%増）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

①資産

資産合計は、M&Aの実施に伴う現金や棚卸資産の増加、時価評価による投資有価証券の増加及び新築工事に伴う建設仮勘定の増加等から、前連結会計年度末比50億71百万円増加し、1,721億16百万円となりました。

②負債

負債合計は、返済による1年内返済予定の長期借入金や1年内償還予定の社債等の減少がありましたが、M&A資金及び社債償還資金の調達による長期借入金の増加等から、前連結会計年度末比45億67百万円増加し、1,132億28百万円となりました。

③純資産

純資産合計は、自己株式の取得や配当金の支払による利益剰余金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上やその他有価証券評価差額金の増加等から、前連結会計年度末比5億4百万円増加し、588億88百万円となりました。この結果、自己資本比率は34.2%（前連結会計年度末は35.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、2025年11月7日に公表いたしました業績予想に変更はありません。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)	(単位：百万円)
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	4,983	7,203	
売掛金及び契約資産	9,414	9,455	
電子記録債権	477	533	
リース投資資産	3,734	3,690	
棚卸資産	5,032	6,097	
その他	1,270	2,091	
貸倒引当金	△34	△50	
流動資産合計	<u>24,878</u>	<u>29,020</u>	
<b>固定資産</b>			
有形固定資産			
建物及び構築物（純額）	31,388	31,134	
工具、器具及び備品（純額）	5,515	5,646	
機械装置及び運搬具（純額）	1,932	1,852	
土地	61,012	61,350	
建設仮勘定	316	829	
その他（純額）	244	245	
有形固定資産合計	<u>100,409</u>	<u>101,058</u>	
無形固定資産			
のれん	4,649	4,812	
顧客関連資産	6,973	6,711	
その他	1,310	1,081	
無形固定資産合計	<u>12,932</u>	<u>12,605</u>	
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券	26,316	26,706	
その他	2,519	2,753	
貸倒引当金	△55	△51	
投資その他の資産合計	<u>28,779</u>	<u>29,409</u>	
<b>固定資産合計</b>	<u>142,121</u>	<u>143,073</u>	
<b>繰延資産</b>	44	22	
<b>資産合計</b>	<u>167,044</u>	<u>172,116</u>	
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
営業未払金	5,329	5,956	
短期借入金	7,700	10,690	
1年内返済予定の長期借入金	8,847	7,620	
1年内償還予定の社債	10,979	7,107	
その他	4,438	6,062	
流動負債合計	<u>37,295</u>	<u>37,437</u>	
<b>固定負債</b>			
社債	7,429	375	
長期借入金	41,950	54,443	
再評価に係る繰延税金負債	4,965	4,965	
繰延税金負債	7,193	7,266	
退職給付に係る負債	1,566	1,617	
資産除去債務	2,683	2,601	
受入保証金	4,462	4,338	
その他	1,113	182	
固定負債合計	<u>71,364</u>	<u>75,791</u>	
<b>負債合計</b>	<u>108,660</u>	<u>113,228</u>	

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
<b>　資本金</b>	<b>10,555</b>	<b>10,555</b>
<b>　資本剰余金</b>	<b>3,167</b>	<b>3,256</b>
<b>　利益剰余金</b>	<b>28,141</b>	<b>30,263</b>
<b>　自己株式</b>	<b>△536</b>	<b>△2,608</b>
<b>　株主資本合計</b>	<b>41,328</b>	<b>41,467</b>
その他の包括利益累計額		
<b>　その他有価証券評価差額金</b>	<b>13,545</b>	<b>13,789</b>
<b>　繰延ヘッジ損益</b>	<b>197</b>	<b>317</b>
<b>　土地再評価差額金</b>	<b>3,326</b>	<b>3,326</b>
<b>　退職給付に係る調整累計額</b>	<b>△13</b>	<b>△12</b>
<b>　その他の包括利益累計額合計</b>	<b>17,055</b>	<b>17,420</b>
<b>純資産合計</b>	<b>58,384</b>	<b>58,888</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>167,044</b>	<b>172,116</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
営業収益	60,118	66,018
営業原価	52,668	55,722
営業総利益	7,450	10,296
販売費及び一般管理費	4,645	5,340
営業利益	2,805	4,956
営業外収益		
受取配当金	608	793
その他	40	35
営業外収益合計	648	828
営業外費用		
支払利息	511	711
シンジケートローン手数料	3	279
その他	49	55
営業外費用合計	563	1,045
経常利益	2,889	4,739
特別利益		
固定資産売却益	8	13
投資有価証券売却益	1,006	1,158
事業譲渡益	200	—
特別利益合計	1,215	1,171
特別損失		
固定資産売却損	—	7
固定資産除却損	82	20
減損損失	—	313
投資有価証券評価損	—	77
契約違約金	—	79
創業100周年記念関連費用	109	—
特別損失合計	192	498
税金等調整前四半期純利益	3,911	5,413
法人税等	1,399	1,811
四半期純利益	2,512	3,601
非支配株主に帰属する四半期純利益	253	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,259	3,601

## 四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,512	3,601
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,046	243
繰延ヘッジ損益	59	120
退職給付に係る調整額	1	0
その他の包括利益合計	2,107	365
四半期包括利益	4,620	3,966
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,169	3,966
非支配株主に係る四半期包括利益	451	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

### (継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

## 税金費用の計算

一部の子会社を除き、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、見積実効税率を使用できない会社については、法定実効税率を使用しております。

### (キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却費は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	2,374 百万円
のれんの償却費	305 " " 319 "

## (セグメント情報等の注記)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連			
売上高							
外部顧客への売上高	18,923	36,505	1,294	3,395	60,118	—	60,118
セグメント間の内部 売上高又は振替高	544	59	216	65	886	△886	—
計	19,468	36,565	1,510	3,460	61,004	△886	60,118
セグメント利益	1,301	1,527	49	1,486	4,365	△1,560	2,805

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,260百万円、のれん償却額△305百万円及び未実現利益調整額0百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連			
売上高							
外部顧客への売上高	18,754	42,525	1,272	3,466	66,018	—	66,018
セグメント間の内部 売上高又は振替高	566	67	264	23	922	△922	—
計	19,320	42,593	1,536	3,490	66,940	△922	66,018
セグメント利益	1,529	3,744	52	1,529	6,854	△1,898	4,956

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,584百万円及びのれん償却額△319百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

「物流関連」セグメントにおいて、物流システムに係る減損損失を281百万円計上、「不動産関連」セグメントにおいて、遊休地に係る減損損失を31百万円計上しております。

## (のれんの金額の重要な変動)

「物流関連」セグメントにおいて、株式会社ヤマタネドキュメントマネジメント及び株式会社キヨクトウの全株式を取得し、連結子会社しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては70百万円であります。また、「食品関連」セグメントにおいて、有限会社農産ベストパートナー及び株式会社しん力の全株式を取得し、連結子会社しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては412百万円であります。なお、発生したのれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連	
国内物流	15,146	—	—	—	15,146
国際物流	2,566	—	—	—	2,566
玄米卸売販売	—	4,755	—	—	4,755
精米卸売販売	—	16,571	—	—	16,571
加工食品卸売販売	—	14,212	—	—	14,212
食品小売販売	—	—	—	—	—
システム開発、保守等	—	—	1,208	—	1,208
棚卸支援機器レンタル	—	—	69	—	69
その他	155	966	16	85	1,224
顧客との契約から生じる収益	17,869	36,505	1,294	85	55,754
その他の収益	1,054	—	—	3,309	4,363
外部顧客への売上高	18,923	36,505	1,294	3,395	60,118

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連	
国内物流	14,667	—	—	—	14,667
国際物流	2,887	—	—	—	2,887
玄米卸売販売	—	5,099	—	—	5,099
精米卸売販売	—	20,236	—	—	20,236
加工食品卸売販売	—	14,741	—	—	14,741
食品小売販売	—	796	—	—	796
システム開発、保守等	—	—	1,206	—	1,206
棚卸支援機器レンタル	—	—	49	—	49
その他	125	1,651	16	85	1,877
顧客との契約から生じる収益	17,679	42,525	1,272	85	61,562
その他の収益	1,075	—	—	3,381	4,456
外部顧客への売上高	18,754	42,525	1,272	3,466	66,018